

日本語における埋め込み文の代用表現

言語学・応用言語学専攻
平成 18 年入学
1LT06013W 伊藤絵里
2010 (平成 21)年 1 月提出

要旨

日本語には、埋め込み文を代用するのに、ソレ、ソノコト・ソコ・ソウといった表現が存在する。ソレについては、最も一般的な代用表現でほとんどの文章で使用可能であるのに対し、ソノコト・ソコ・ソウは、代用できる埋め込み文が限られている。本論文では、様々な埋め込み文の例文を数多く観察し、分析していくことによって、ソノコト・ソコ・ソウの使い分けと意味役割についての説明を試みた。

まずソノコト・ソコ・ソウの使い分けに関しては、埋め込み文の内容が、(i) 事象・事柄として捉えられるか、意見や見解と見なされるか、また(ii) ト節かノヲ節かが、大きな要因であることが分かった。また、それぞれの代用表現の意味役割に関しては、ソウには自分の感情や言葉が、現場状況を示すソコには他との関わりが必要であることが明らかとなった。また、強調を示すソコは、単独で使用可能となることがほとんどないため、ソノコトの一種であるのではないかと結論付けた。

目次

1. はじめに	1
2. 代用表現	2
2.1. 指示詞.....	2
2.2. 埋め込み文と代用表現.....	3
3. 動詞のタイプによる代用表現の違い.....	4
3.1. 動詞のタイプ.....	5
3.2. 了解.....	6
3.2.1. 「と考えた」「と結論づけた」	6
3.2.2. 「と決定した」「と信じている」	6
3.2.3. 「と分かっている」「と確認した」	7
3.3. 行動.....	7
3.3.1. 「のに働きかける」	7
3.3.2. 「のを目撃する」	8
3.4. 伝達.....	9
3.4.1. 「と」を補文化辞とする場合	9
3.4.2. 「のを」を補文化辞とする場合	11
3.4.3. 現場	12
3.5. 感情.....	12
3.5.1. 「と」を補文化辞とする場合	12
3.5.2. 「のを」を補文化辞とする場合	13
3.6. 疑問.....	15
3.7. 付加詞的「と」	16
4. 代用表現ごとの違い	18
4.1. ソウ.....	18
4.2. ソノコト.....	20
4.3. ポイントのソコ.....	22
4.4. 現場のソコ.....	24
5. まとめ	25
6. 参考文献	29

1. はじめに

文中の名詞句は、次のようにソ系指示詞などの代用表現によって置き換えられうる。

- (1) a. 私は [NP 捨てられていた手紙]を 見た¹。
b. 私は**それ**を見た。

同様に、埋め込み文も代用表現によって置き換えられることがある。その場合、埋め込み文の代用表現としては、ソレ以外にもソノコト・ソコ・ソウなどがある。

- (2) a. 私は [s 弟が捨てられていた手紙を拾ったの]を 見た。
b. 私は**それ**を見た²。
(3) a. 太郎は [s 花子が会議を無断欠席したこと]を 報告した。
b. 太郎は**そのこと**を報告した。
(4) a. メアリーは [s 母が妹ばかりかわいがるの]が 不満だった。
b. メアリーは**そこ**が不満だった。
(5) a. ジョンは [s ケンが自分のことを信じている]と 確信している。
b. ジョンは**そう**確信している。

しかし、これらの代用表現がどの埋め込み文に対しても使えるわけではない³。

- (6) a. ヨシオは 息子の担任になるとは 思わなかった。
b. *ヨシオは**それ**とは思わなかった。
(7) a. 犯人は 警察官が自分を追いかけてくるのを 見た。

¹ 以下、例文中の下線部を、代用する対象となるものを示すことにする。また、ゴシック体で記した表現を、下線部の代用表現を表す。

² (2b)のソレは「弟が拾った、捨てられていた手紙」という主部内在関係節としての解釈も可能であるが、本論ではこの解釈については扱わない。ちなみに(2b)で問題にしたい解釈は、ソレを「弟が、捨てられていた手紙を拾ったその場面」という解釈である。

³ 本論文内の代用表現使用の可否判断は、代用元である単一文の意味をその代用表現が正確に伝えているかということを取っている。例えば(i-b)の可否判断をする際、(ii)のような文脈に入れて判断をせず、あくまで(i-a)の文の下線部分(対戦相手が反則技を使ってくる)をソコで代用できるかをのみを問題にする。実際、(ii)のような会話等の文脈に入れて判断すると、許容できる場合が結構ある。

- (i) a. チャンピオンは、対戦相手が反則技を使ってくると 読んだ。
b. *チャンピオンは**そこ**を読んだ。
(ii) さすがチャンピオン。対戦相手が反則技を使ってくる。**そこ**を読んで接近戦を避けてたよ。

- b. *犯人は**そのこと**を見た。
- (8) a. 母親は 息子がベビーベッドで泣いているのを 知った。
- b. *母親は**そこ**を知った。
- (9) a. 先生は 生徒がおしゃべりしているのを やめさせた。
- b. *先生は**そう**やめさせた。

本論文では、文脈を伴わない埋め込み文を含む一文において、どの埋め込み文でどの代用表現が使えるのかを整理し、考察する。まず、2章では、代用表現全般について、先行文献で述べられていることをまとめる。その上で、3章では、まず主節動詞のタイプごとに分類し、どのような代用表現が用いられるかを考察することで、代用表現の可否判断の要因について分析する。さらに4章では、代用表現ごとに、どのような使用の制限があるかを述べ、それぞれの代用表現の関係性についても考察する。

2. 代用表現

本章では、日本語の代用表現について概観する。言語的文脈において、ある要素を代用する表現は様々あるが、その中でも指示詞は代表的な代用表現と言える。

2.1. 指示詞

指示詞とは、一般的に次のように理解されている⁴。

- (10) 【定義】話の素材が、話し手の縄張りに属するか、聞き手の縄張りに属するか、それ以外の領域に属するか、を表すとともに、その素材が、人・物・場所・方向・また状態の、いずれの範疇のものであるかを表す語。例えば、「ここ」は素材を話し手の縄張りに属する場所として表したものであり、「あなた」は素材を聞き手の縄張りを支配する人として表現したものである。

【解説】指示詞には、従来、次の三つの考え方がある。①代名詞と称して名詞の一種とするもの、②コソアド、代名詞または指示詞と称して、名詞とは異なる新たな品詞とするもの、③副詞とするもの、である。

(鈴木泰 『日本文法辞典』1981 : 185-190)

⁴ 「指示詞」という用語はもともと佐久間(1951 : 13)が初めて用いた名称だった。そこに至るまでは、「代名詞」→「コソアド言葉」→「指示語」→「指示詞」という変遷をたどっており、「指示詞」を表題に用いた最も早い文献は井出(1960)である。指示詞ならびに指示詞に関する研究の詳細は、国立国語研究所(1981)や金水・田窪(1992)を参照されたい。ちなみに川端(1993 : 60-61)は、「指示語には「構文的側面」と「意味論的側面」の二つの側面が属しているが、前者の研究はほとんどなく、後者も比較的最近まで、活発だったわけではないようである」、と述べている。

また、佐久間(2002)によると指示詞は、先行文や後続文の内容を当該文に反復して持ち込む機能を持ち、接続詞と相互補完しあう形で、段や連段の統括機能を果たしている。そして同時に、それらは、談話全体の文脈展開や対人関係の機能も分担している。つまり指示詞は、接続詞と比較すると、主として内容面から、文章・談話の話題を実質的な意味のつながりとして表現する働きをしており、同時に、文章の全体的構造や段のまとまりを情報として作り上げる内的な統括機能を持っているようである。そのことが時枝(1950: 291)では、「接続詞が、文章展開において重要な役割をもつものとするならば、代名詞は、分裂展開する思考を集約して、統合する任務を持つものといえる。」と述べられている。

2.2. 埋め込み文と代用表現

次章で埋め込み文の代用表現（ソノコト・ソコ・ソウ）について具体的に観察を行っていくが、その前にコ系の代用表現との違いについて概観しておく。以下の例を見てほしい。

- (11) a. 彼は、昨日の出来事をすべて話した。私は**それ**を聞いて、非常に驚いた。
b. 彼は、昨日の出来事をすべて話した。私は**これ**を聞いて、非常に驚いた。

(11)はいずれもソレとコレが下線部を受けているように見えるが、コレは話の全体を強調して指し示すといった感覚が強く、新たに筆者・話し手の意識にのぼった話題を提示するというニュアンスを伴っている。このことは以下の例からもうかがえる。(12)において、B2のコレは、Aの下線部を受けていない。つまりコレは、厳密に先行する言語的先行詞である埋め込み文を受けていなくても使用可能であるといえる。

- (12) A: Nが大麻で捕まったの、聞いたか？
B1: **それ**は{大変だ/驚いた/事件だ}。
B2: **これ**は{大変だ/驚いた/事件だ}。 [庵 1995: p.636 (16), (16)]

また、コレはソレとは違い、話全体を指して使用することもできる。

- (13) a. スーザンは、すべてを語った。**それが**今回の誘拐事件の真相である。あの日、彼女は誰よりも早く出勤した。そして…
b. スーザンは、すべてを語った。**これが**今回の誘拐事件の真相である。あの日、彼女は誰よりも早く出勤した。そして…

この例からはさらに、コレが後の文を代用できることも分かった。

一方、ソレは後の文を代用することはできず、先行する表現中の特定の語句しか代用できない。この点のコレとソレとの違いは、以下の例からもわかる。(14)において、B2のコレは、Aの下線部を厳密に受けるように解釈しようとしても容認できないと思われる。一方、ソレは難なくAの下線部を受けることが可能である。

- (14) A: Nが大麻で捕まったの、聞いたか？
B1: ああ。**それは**さっきラジオで聞いた。
B2: ??ああ。**これは**さっきラジオで聞いた。 [cf. 庵 1995: p.636 (15),(15)']

このように、同じ代用表現であっても、コ系とソ系とでは働きが異なっている。本論文では、前後の文脈のない状態で、埋め込み文を厳密に受ける代用表現を見ていくので、ソ系の代用表現にのみ焦点をあてて論じていく。

3. 動詞のタイプによる代用表現の違い

本章と次章で、埋め込み文の代用表現として使えるソ系の表現を見ていく。具体的にはソノコト・ソコ・ソウである。前章では埋め込み文の代用表現の例としてソレを挙げたが、ソレが使用不可となるのは述語に「思う」を使った文章のみなので、本論文での表現比較では、ソレには言及しないこととする。

- (6) a. ヨシオは 息子の担任になるとは 思わなかった。
b. *ヨシオは**それ**とは思わなかった。
(15) a. 犯人は 警察官が自分を追いかけてくるのを 見た。
b. 犯人は**それ**を見た。 (cf. *犯人は**そのこと**を見た)
(16) a. 母親は 息子がベビーベッドで泣いているのを 知った。
b. 母親は**それ**を知った。 (cf. *母親は**そこ**を知った)
(17) a. 先生は 生徒がおしゃべりしているのを やめさせた。
b. 先生は**それを**やめさせた。 (cf. *先生は**そう**やめさせた)

観察を始める前に、ソコについて一言述べておきたい。ソコは以下のように同じソコとはいえないものがある。

- (18) a. トムは ヘンリーがスーパーマンに変身するのを 目撃した。

b. トムは**そこ**を目撃した。

(19) a. トムは ヘンリーがスーパーマンに変身するのを 知っている。

b. トムは**そこ**を知っている。

(18)の場合のソコは、ヘンリーが今まさにスーパーマンに変身している現場状況を示す。それは、事実というよりも、トムの目の前で繰り広げられている場面そのものである。一方、(19)でのソコは、場面ではなく、トムが持っている様々な知識の中のひとつを指示する。この違いは、(18a),(19a)をそれぞれ「その現場」「その点」のいずれかにしか言い換えができない事実からうかがえる。(18a)は、埋め込み文を「その現場」に言い換えることができるが、「その点」に言い換えることはできない。一方、(19a)は、埋め込み文を「その現場」に言い換えることができないが、「その点」には言い換えることはできる。

(18) a. トムは ヘンリーがスーパーマンに変身するのを 目撃した。

(20) a. トムは**その現場**を目撃した。

b. *トムは**その点**を目撃した。

(19) a. トムは ヘンリーがスーパーマンに変身するのを 知っている。

(21) a. *トムは**その現場**を知っている。

b. トムは**その点**を知っている。

よって、同じようにソコと表現するものでも指し示す内容によって二つの異なる意味合いがあり、それらは区別する必要があることが分かる。以下では、(18)のようなグループを**現場のソコ**、(19)のようなグループを**ポイントのソコ**と呼ぶこととし、ソコをこの2つに分けて観察を行う。

3.1. 動詞のタイプ

以下では、主節動詞のタイプによって埋め込み文の代用表現がどう異なるかを見ていく。ここで主節動詞のタイプというのは、主節動詞がとる埋め込み文の種類に基づいて分類している。日本語の埋め込み文には色々なものがあるが、本論ではト節、ノヲ節、疑問節に限定して考察していく。以下、(22a)から順に見ていく。

(22) a. 項のト節を取る動詞（考えた、決定した、分かっている など）

b. ノヲ節を取る動詞（追求する、目撃する など）

c. 項のト節とノヲ節の両方を取る動詞（伝える、心配する など）

- d. 疑問節を取る動詞
- e. 付加詞のト節を取る動詞

3.2. 了解

3.2.1. 「と考えた」「と結論づけた」

「と考えた」「と結論付けた」に代表されるような、自分の意見を固めた（ている）ことを示す動詞は、ソウのみがその埋め込み補文を代用することが可能である。

- (23) a. 刑事は犯人は時効まで逃げ切る気でいたはずだと考えた。
 - b. *刑事はそこを考えた。
 - c. *刑事はそのことを考えた。
 - d. 刑事はそう考えた。
- (24) a. チャンピオンは対戦相手が試合を棄権すると読んだ。
 - b. *チャンピオンはそこを読んだ。
 - c. *チャンピオンはそのことを読んだ。
 - d. チャンピオンはそう読んだ。
- (25) a. 学生たちは実験が失敗したのは先生のせいだと結論付けた。
 - b. *学生たちはそこと結論付けた。
 - c. *学生たちはそのことと結論付けた。
 - d. 学生たちはそう結論付けた。
- (26) a. 友乃は母が自分の好みを押し付けてはいないと認めた。
 - b. *友乃はそこを認めた。
 - c. *友乃はそのことを認めた。
 - d. 友乃はそう認めた。

3.2.2. 「と決定した」「と信じている」

上で示したのと同じグループと思われる動詞であっても、埋め込み文として意見などではなくひとつの（全体の）事象として捉えている内容の文を取る動詞の場合は振舞いが異なる。すなわち、ソウに加えてソノコトでも代用が可能である。

- (27) a. 校長は雨でも運動会を強行すると決定した。
 - b. *校長はそこを決定した。
 - c. 校長はそのことを決定した。
 - d. 校長はそう決定した。
- (28) a. 母は父が必ず生きて帰ってくると信じている。

- b. *母は**そこ**を信じている。
- c. 母は**そのこと**を信じている。
- d. 母は**そう**信じている。

3.2.3. 「と分かっている」「と確認した」

すでに持っている知識を自分の中で認めていることを示す動詞グループでは、その埋め込み文部分をソノコト・ソウに加えてポイントのソコでも代用できる。

- (29) a. ケイコはマナブが精一杯勉強したのだと分かっている。
- b. ケイコは**そこ**を分かっている。(そこ=その点)
- c. ケイコは**そのこと**を分かっている。
- d. ケイコは**そう**分かっている。
- (30) a. 息子は明日が父が出張から戻る日であると確認した。
- b. 息子は**そこ**を確認した。
- c. 息子は**そのこと**を確認した。
- d. 息子は**そう**確認した。
- (31) a. 愛子は入社式が明日の12時からであると確認した。
- b. 愛子は**そこ**を確認した。
- c. 愛子は**そのこと**を確認した。
- d. 愛子は**そう**確認した。

3.3. 行動

3.3.1. 「のに働きかける」

他者に働きかける動作を表す動詞を用いる文は、埋め込み文が現場状況を表現しているため、その代用表現としては現場のソコのみが可能である。

- (32) a. 刑事は 容疑者が言い逃れしようとするのを 追及する。
- b. 刑事は**そこ**を追及する。
- c. *刑事は**そのこと**を追及する。
- d. *刑事は**そう**追及する。
- (33) a. 記者は アイドルが逃げようとするのを 追いかける。
- b. 記者は**そこ**を追いかける。
- c. *記者は**そのこと**を追いかける。
- d. *記者は**そう**追いかける。
- (34) a. 良子は 近所の子供がいたずら書きをしているのを 注意した。

- b. 良子は**そこ**を注意した。
 - c. *良子は**そのこと**を注意した。
 - d. *良子は**そう**注意した。
- (35) a. 真は 幸子が喧嘩しようとするのを とどめた。
- b. 真は**そこ**をとどめた。
 - c. *真は**そのこと**をとどめた。
 - d. *真は**そう**とどめた。
- (36) a. 祐介は コンビニで小さな少年が万引きしようとしたのを 捕まえた。
- b. 祐介は**そこ**を捕まえた。
 - c. *祐介は**そのこと**を捕まえた。
 - d. *祐介は**そう**捕まえた。
- (37) a. 花子は 息子たちが今にも喧嘩を始めようとするのを やめさせた。
- b. 花子は**そこ**をやめさせた。
 - c. *花子は**そのこと**をやめさせた。
 - d. *花子は**そう**やめさせた。
- (38) a. 真由美は リポーターが質問しようとするのを 遮った。
- b. 真由美は**そこ**を遮った。
 - c. *真由美は**そのこと**を遮った。
 - d. *真由美は**そう**遮った。
- (39) a. 洋平は 母親が料理するのを 手伝った。
- b. 太一は**そこ**を手伝った。
 - c. *太一は**そのこと**を手伝った。
 - d. *太一は**そう**手伝った。

3.3.2. 「のを目撃する」

次にあげるのは“視覚的接触がある”場合である。この場合も、現場のソコ以外の代用表現ではうまく当てはまらない。

- (40) a. 潤は 昔の恋人が他の人とデートしているのを 見て見ぬふりをした。
- b. 潤は**そこ**を見て見ぬふりをした。
 - c. *潤は**そのこと**を見て見ぬふりをした。
 - d. *潤は**そう**見て見ぬふりをした。
- (41) a. 光太郎は 妹がプロポーズされているのに 出くわした。
- b. 光太郎は**そこ**に出くわした。
 - c. *光太郎は**そのこと**に出くわした。

- d. *光太郎は**そう**出くわした。
- (42) a. 少女は 殺人犯が逃走するのを 目撃する。
 b. 少女は**そこ**を目撃する。
 c. *少女は**そのこと**を目撃する。
 d. *少女は**そう**目撃した。
- (43) a. 幸子は 自分の妹が彼に告白するのを 見た。
 b. 幸子は**そこ**を見た。
 c. *幸子は**そのこと**を見た。
 d. *幸子は**そう**見た。

3.4. 伝達

伝達を意味する動詞は、その伝達内容を表す埋め込み文をト節とノヲ節で代用することが可能である。

- (44) a. 私は友達に 浅田真央が一位ではなかった**と** 教えた。
 b. 私は友達に 浅田真央が一位ではなかった**のを** 教えた。

この埋め込み文標識によって、それを代用できる表現がそれぞれ異なる。

3.4.1. 「と」を補文化辞とする場合

伝達を示す動詞を述語とする場合、「と」を補文化辞とすると、ソウのみが使用可能な代用表現となる。

- (45) a. 太一は できるなら自分が妻の身代わりになりたいと 話した。
 b. *太一は**そこ**を話した。
 c. *太一は**そのこと**を話した。
 d. 太一は**そう**話した。
- (46) a. 裕太郎は 両親が自分に跡を継いでほしいがっていると 伝えた。
 b. *裕太郎は**そこ**を伝えた。
 c. *裕太郎は**そのこと**を伝えた。
 d. 裕太郎は**そう**伝えた。
- (47) a. プロデューサーは 芸人が次週の番組内で踊りを披露すると 放送した。
 b. *プロデューサーは**そこ**を放送した。
 c. *プロデューサーは**そのこと**を放送した。
 d. プロデューサーは**そう**放送した。

- (48) a. 悠太は 監督が女優を説得すると 聞いた。
b. *悠太はそこを聞いた。
c. *悠太はそのことを聞いた。
d. 悠太はそう聞いた。
- (49) a. 政府は 必殺仕分け人が前半の仕事を終えたと 発表した。
b. *政府はそこを発表した。
c. *政府はそのことを発表した。
d. 政府はそう発表した。
- (50) a. 私は 浅田真央が一位ではなかったと 教える。
b. *私はそこを教える。
c. *私はそのことを教える。
d. 私はそう教える。
- (51) a. アナウンサーは 火事の現場が大混乱になっていると 伝えた。
b. *アナウンサーはそこを伝えた。
c. *アナウンサーはそのことを伝えた。
d. アナウンサーはそう伝えた。
- (52) a. 容疑者は 自分の攻撃は正当防衛であると 強く主張した。
b. *容疑者はそこを強く主張した。
c. *容疑者はそのことを強く主張した。
d. 容疑者はそう強く主張した。
- (53) a. 容疑者は 自分は騙されていたと 切々と訴えた。
b. *容疑者はそこを切々と訴えた。
c. *容疑者はそのことを切々と訴えた。
d. 容疑者はそう切々と訴えた。
- (54) a. 翔太は 仕事の量に無理があると 訴える。
b. *翔太はそこを訴える。
c. *翔太はそのことを訴える。
d. 翔太はそう訴える。
- (55) a. 良子は 近所の子供がいたずら書きをしていると 注意した。
b. *良子はそこを注意した。
c. *良子はそのことを注意した。
d. 良子はそう注意した。
- (56) a. 新郎は 新婦を一生愛すると 誓わなかった。
b. *新郎はそこを誓わなかった。
c. *新郎はそのことを誓わなかった。

- d. 新郎は**そう**誓わなかった。
- (57) a. タカシは 先輩が受験に失敗したと 聞いた。
- b. *タカシは**そこ**を聞いた。
- c. *タカシは**そのこと**を聞いた。
- d. タカシは**そう**聞いた。

3.4.2. 「のを」を補文化辞とする場合

一方「のを」を補文化辞とする場合には、ポイントのソコとソノコトが使用可能となり、ソウは使用できない。

- (58) a. 私は 浅田真央が一位ではなかったのを 教える。
- b. 私は**そこ**を教える。 (そこ≡その点)
- c. 私は**そのこと**を教える。
- d. *私は**そう**教える。
- (59) a. 裕太郎は 両親が自分に跡を継いでほしがっているのを 伝えた。
- b. 裕太郎は**そこ**を伝えた。
- c. 裕太郎は**そのこと**を伝えた。
- d. *裕太郎は**そう**伝えた。
- (60) a. 刑事は 容疑者が一度現場から逃げたのを 追求する。
- b. 刑事は**そこ**を追及する。
- c. 刑事は**そのこと**を追及する。
- d. *刑事は**そう**追及する。
- (61) a. タカシは 先輩が受験に失敗したのを 聞いた。
- b. タカシは**そこ**を聞いた。
- c. タカシは**そのこと**を聞いた。
- d. *タカシは**そう**聞いた。
- (62) a. 政府は 必殺仕分け人が前半の仕事を終えたのを 発表した。
- b. 政府は**そこ**を発表した。
- c. 政府は**そのこと**を発表した。
- d. *政府は**そう**発表した。
- (63) a. 息子は 父が出張から戻るのが明日であるのを 確認した。
- b. 息子は**そこ**を確認した。
- c. 息子は**そのこと**を確認した。
- d. *息子は**そう**確認した。
- (64) a. 愛子は 入社式が明日の12時からであるのを 確認した。

- b. 愛子は**そこ**を確認した。
 - c. 愛子は**そのこと**を確認した。
 - d. *愛子は**そう**確認した。
- (65) a. 悠太は 監督が女優を説得するのを 聞いた。
- b. 悠太は**そこ**を聞いた。
 - c. 悠太は**そのこと**を聞いた。
 - d. *悠太は**そう**聞いた。

3.4.3. 現場

「のを」を用いて伝達を意味する動詞を使う場合、以下のように、埋め込み文の内容が“様子・状況を伝達・披露している”現場状況を示す場合がある。

- (66) a. プロデューサーは 芸人が踊っているのを O.A. (放送) した。
- b. カメラマンは 火事の現場が大混乱になっているのを (映像で)伝えた。

このときには、やはり現場のソコが使用され、他の代用表現は用いられない。

- (67) a. プロデューサーは 芸人が踊っているのを O.A. (放送) した。
- b. プロデューサーは**そこ**をオンエアした。 (そこ≡その場面)
- c. *プロデューサーは**そのこと**をオンエアした。
- d. *プロデューサーは**そう**オンエアした。
- (68) a. カメラマンは 火事の現場が大混乱になっているのを (映像で)伝えた。
- b. カメラマンは**そこ**を伝えた。
- c. *カメラマンは**そのこと**を伝えた。
- d. *カメラマンは**そう**伝えた。

3.5. 感情

3.5.1. 「と」を補文化辞とする場合

伝達を示す動詞を述語とする場合と同様、感情を示す動詞を述語とする場合も、補文化辞が「と」ならばソウのみが代用可能である。

- (69) a. 香織は 姉が過労死してしまうと 心配している。
- b. *香織は**そこ**を心配している。
- c. *香織は**そのこと**を心配している。
- d. 香織は**そう**心配している。

- (70) a. マリーは 自分の主張が覆されてしまうと 焦った。
 b. *マリーはそこに焦った。
 c. *マリーはそのことに焦った。
 d. マリーはそう焦った。
- (71) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になると 嘆いた。
 b. *健太郎はそこを嘆いた。
 c. *健太郎はそのことを嘆いた。
 d. 健太郎はそう嘆いた。
- (72) a. 太郎は 合格通知がまだ来ないと 気を揉んでいる。
 b. *太郎はそこに気を揉んでいる。
 c. *太郎はそのことに気を揉んでいる。
 d. 太郎はそう気を揉んでいる。
- (73) a. 体操のお兄さんは 自分の体力がもう限界に近づいていると 感じた。
 b. *体操のお兄さんはそこを感じた。
 c. *体操のお兄さんはそのことを感じた。
 d. 体操のお兄さんはそう感じた。

3.5.2. 「のを」を補文化辞とする場合

そして、「のを」を補文化辞とする場合も先ほどと同じく、ソウは使用できない。そして、埋め込み内容が現場状況ではないので、現場のソコも使えない。よってここでは、ポイントのソコ・ソノコトが使用可能な代用表現となる。

- (74) a. 友乃は 母が自分の好みを押し付けてはいないのを 認めた。
 b. 友乃はそこを認めた。
 c. 友はそのことを認めた。
 d. *友乃はそう認めた。
- (75) a. 報道陣は 犯人が食事を全くとろうとしないのに 注目した。
 b. 警察官はそこに注目した。
 c. 警察官はそのことに注目した。
 d. *警察官はそう注目した。
- (76) a. マリーは 犯人がそのまま逃げていくのに 焦った。
 b. マリーはそこに焦った。
 c. マリーはそのことに焦った。
 d. *マリーはそう焦った。
- (77) a. 太郎は 次郎が約束を守らなかったのを 怒っている。

- b. 太郎は**そこ**を怒っている。
- c. 太郎は**そのこと**を怒っている。
- d. *太郎は**そう**怒っている。
- (78) a. 太一は 自分が妻の身代わりになるのを ためらっている。
- b. 太一は**そこ**をためらっている。
- c. 太一は**そのこと**をためらっている。
- d. *太一は**そう**ためらっている。
- (79) a. 道代は 孫が成長するのを 楽しみにしている。
- b. 道代は**そこ**を楽しみにしている。
- c. 道代は**そのこと**を楽しみにしている。
- d. *道代は**そう**楽しみにしている。
- (80) a. 娘は 母と先生が親しいのを 嫌がった。
- b. 娘は**そこ**を嫌がった。
- c. 娘は**そのこと**を嫌がった。
- d. *娘は**そう**嫌がった。
- (81) a. 浦島太郎は 子供たちが魚をいじめていたのに 驚いた。
- b. 浦島太郎は**そこに**驚いた。
- c. 浦島太郎は**そのこと**に驚いた。
- d. *浦島太郎は**そう**驚いた。
- (82) a. 清少納言は 自分の本が思ったほど人気がないのを 悲しんだ。
- b. 清少納言は**そこ**を悲しんだ。
- c. 清少納言は**そのこと**を悲しんだ。
- d. *清少納言は**そう**悲しんだ。
- (83) a. 母は 父が生きて帰ってくるのを 信じている。
- b. 母は**そこ**を信じている。
- c. 母は**そのこと**を信じている。
- d. *母は**そう**信じている。
- (84) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
- b. 健太郎は**そこ**を嘆いた。
- c. 健太郎は**そのこと**を嘆いた。
- d. *健太郎は**そう**嘆いた。
- (85) a. 恵理子は 大好きなアイドルが近くに引っ越してくるのを 喜んだ。
- b. 恵理子は**そこ**を喜んだ。
- c. 恵理子は**そのこと**を喜んだ。
- d. *恵理子は**そう**喜んだ。

- (86) a. 良介は 姉が結婚したのを 悲しんだ。
 b. 良介は**そこ**を悲しんだ。
 c. 良介は**そのこと**を悲しんだ。
 d. *良介は**そう**悲しんだ。
- (87) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
 b. 健太郎は**そこ**を嘆いた。
 c. 健太郎は**そのこと**を嘆いた。
 d. *健太郎は**そう**嘆いた。
- (88) a. マリエは 親友が先に結婚してしまうのだけが 気がかりだった。
 b. マリエは**そこ**だけが気がかりだった。
 c. マリエは**そのこと**だけが気がかりだった。
 d. *マリエは**そう**とだけ気がかりだった。
- (89) a. 太郎は 合格通知が来ないのにばかり 気を揉んでいる。
 b. 太郎は**そこ**にばかり気を揉んでいる。
 c. 太郎は**そのこと**にばかり気を揉んでいる。
 d. *太郎は**そう**ばかり気を揉んでいる。

3.6. 疑問

次に、疑問文を埋め込み文としている文章のパターンについて考える。疑問文というのは、その文を読んだだけでは答えが分からないものである。よって、埋め込み文が疑問文であるものは、事象や考え・意見として捉えられない。もちろん現場としても無理である。つまり、現場のソコ・ソノコト・ソウは使用できない。一方、疑問の答えは、大抵一つ、そうでなくても限られたものであるので、ポイントのソコを用いて代用することが可能である。

- (90) a. 優子は 浅田真央が何位だったかを 教える。
 b. 優子は**そこ**を教える。
 c. *優子は**そのこと**を教える。
 d. *優子は**そう**教える。
- (91) a. 店長は 自分がなぜクビになったのかを 伝えた。
 b. 店長は**そこ**を伝えた。
 c. *店長は**そのこと**を伝えた。
 d. *店長は**そう**伝えた。
- (92) a. 私は 浅田真央が一位だったかどうかを 教える。
 b. 私は**そこ**を教える。

- c. *私はそのことを教える。
 - d. *私はそう教える。
- (93) a. 息子は 父が明日出張から戻るかどうかを 確認した。
- b. 息子はそこを確認した。
 - c. *息子はそのことを確認した。
 - d. *息子はそう確認した。
- (94) a. 妻は 夫がいつ帰ってくるのかを 知っていた。
- b. 妻はそこを知っていた。
 - c. *妻はそのことを知っていた。
 - d. *妻はそう知っていた。

3.7. 付加詞的「と」

これまで見てきたト節は、(95)のように主節動詞の項に相当するものであった。

- (95) a. 容疑者は 自分は騙されていたと 切々と訴えた。
- b. 刑事は犯人は時効まで逃げ切る気でいたはずだと考えた。
 - c. 教師は 生徒がなかなか到着しないと 心配して 待っている。

しかしト節でも(96)のように主節動詞の項に相当しないものがある。

- (96) a. 博之は 我が子が産まれてしまうと 病院へ走っていった。
- b. 教師は 生徒がなかなか到着しないと (生徒たちを) 待っている。

この場合のトは、いわば「と言って」「とと思って」などの意味に近い。この種のト節を、**付加詞のト節**と呼ぶことにする。この付加詞のト節に対して代用表現を使用した場合、以下のように日本語として不完全なものとなる。

- (97) a. 教師は 生徒がなかなか到着しないと (生徒たちを) 待っている。
- b. *教師はそこで(生徒たちを)待っている。
 - c. *教師はそのことで(生徒たちを)待っている。
 - d. *教師はそう(生徒たちを)待っている。
- (98) a. 博之は 我が子が産まれてしまうと 病院へ走っていった。
- b. *博之はそこで病院へ走っていった。
 - c. *博之はそのことで病院へ走っていった。
 - d. *博之はそう病院へ走っていった。

- (99) a. 幸代は 宅配便がもうじき来ると 待っている。
b. *幸代は**そこ**で待っている。
c. *幸代は**そのこと**を待っている。
d. *幸代は**そう**待っている。
- (100) a. 立てこもり犯は 人質が暴れて逆に迷惑だと 解放した。
b. *立てこもり犯は**そこ**を解放した。
c. *立てこもり犯は**そのこと**で解放した。
d. *立てこもり犯は**そう**解放した。
- (101) a. 弁護士は被告人が 自白させられるのではないかと 緊張した。
b. *弁護士は**そこ**で緊張した。
c. *弁護士は**そのこと**で緊張した。
d. *弁護士は**そう**緊張した。
- (102) a. 大統領は 自分が国民の力になりたいと 働いた。
b. *大統領は**そこ**を働いた。
c. *大統領は**そのこと**で働いた。
d. *大統領は**そう**働いた。
- (103) a. 太郎は 次郎が約束を守らなかったと 怒っている。
b. *太郎は**そこ**を怒っている。
c. *太郎は**そのこと**を怒っている。
d. *太郎は**そう**怒っている。
- (104) a. 暴力団員は 太郎の肩がぶつかったと 絡んできた。
b. *暴力団員は**そこ**で絡んできた。
c. *暴力団員は**そのこと**で絡んできた。
d. *暴力団員は**そう**絡んできた。
- (105) a. 由希子は 娘が勢いよくこけたと 笑った。
b. *由希子は**そこ**を笑った。
c. *由希子は**そのこと**を笑った。
d. *由希子は**そう**笑った。
- (106) a. 太一は 本当は自分が妻の身代わりになどなりたくないと ためらっている。
b. *太一は**そこ**をためらっている。
c. *太一は**そのこと**をためらっている。
d. *太一は**そう**ためらっている。

4. 代用表現ごとの違い

第3章では、埋め込み文をとる動詞をタイプ分けし、それぞれに対してどのような代用表現が可能であるかをまとめた。第4章では、それぞれの代用表現ごとに、使用可能な例文をまとめ、それらにどういう傾向があるのか考察する。これまで見てきた数々の例から分かるように、埋め込み文を伴った文章には、ひとつの表現のみが代用可能なものと、複数の表現が代用可能なものがある。第4章では、その点に着目した上で、動詞のタイプごとに分類を進めていく。

4.1. ソウ

はじめに、ソウについて取り上げる。埋め込み文をソウのみが代用可能な例文を先に取り上げる。以下は、埋め込み文が事象を示し、自分の中で認めることを意味する動詞が用いられているものである。

- (107) a. ケイコは マナブが精一杯勉強したのだと 分かっている。
b. ケイコは**そう**分かっている。
- (108) a. 息子は 明日が父が出張から戻る日であると 確認した。
b. 息子は**そう**確認した。
- (109) a. 愛子は 入社式が明日の12時からであると 確認した。
b. 愛子は**そう**確認した。

ソウのみが用いられる文章には、主語の感情を表現している動詞を述語とするものもある。以下にその数例を示す。

- (110) a. 香織は 姉が過労死してしまうと 心配している。
b. 香織は**そう**心配している。
- (111) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になると 嘆いた。
b. 健太郎は**そう**嘆いた。
- (112) a. 太郎は 合格通知がまだ来ないと 気を揉んでいる。
b. 太郎は**そう**気を揉んでいる。
- (113) a. 体操のお兄さんは 自分の体力がもう限界に近づいていると 感じた。
b. 体操のお兄さんは**そう**感じた。
- (114) a. 刑事は 犯人は時効まで逃げ切る気でいたはずだと 考えた。
b. 刑事は**そう**考えた。

- (115) a. 学生たちは 実験が失敗したのは先生のせいだと 結論付けた。
b. 学生たちは**そう**結論付けた。
- (116) a. 新郎は 新婦を一生愛すると 誓わなかった。
b. 新郎は**そう**誓わなかった。

主語からのまたは主語への伝達・意思表示を意味する動詞を用いる場合も、ソウのみが使用可能である。

- (117) a. 太一は できるなら自分が妻の身代わりになりたいと 話した。
b. 太一は**そう**話した。
- (118) a. 裕太郎は 両親が自分に跡を継いでほしがっていると 伝えた。
b. 裕太郎は**そう**伝えた。
- (119) a. プロデューサーは 芸人が次週の番組内で踊りを披露すると 放送した。
b. プロデューサーは**そう**放送した。
- (120) a. 悠太は 監督が女優を説得すると 聞いた。
b. 悠太は**そう**聞いた。
- (121) a. 政府は 必殺仕分け人が前半の仕事を終えたと 発表した。
b. 政府は**そう**発表した。
- (122) a. 私は 浅田真央が一位ではなかったと 教える。
b. 私は**そう**教える。
- (123) a. アナウンサーは 火事の現場が大混乱になっていると 伝えた。
b. アナウンサーは**そう**伝えた。
- (124) a. 容疑者は 自分の攻撃は正当防衛であると 強く主張した。
b. 容疑者は**そう**強く主張した。
- (125) a. 容疑者は 自分は騙されていたと 切々と訴えた。
b. 容疑者は**そう**切々と訴えた。
- (126) a. 翔太は 仕事の量に無理があると 訴える。
b. 翔太は**そう**訴える。
- (127) a. 良子は 近所の子供がいたずら書きをしていると 注意した。
b. 良子は**そう**注意した。
- (128) a. 友乃は 母が自分の好みを押し付けてはいないと 認めた。
b. 友乃は**そう**認めた。
- (129) a. チャンピオンは 対戦相手が試合を棄権すると 読んだ。
b. チャンピオンは**そう**読んだ。
- (130) a. タカシは 先輩が受験に失敗したと 聞いた。

- b. タカシは**そう**聞いた。
- (131) a. 母は 父が必ず生きて帰ってくると 信じている。
- b. 母は**そう**信じている。

4.2. ソノコト

ソノコトというのは、事象を示す文章に対して用いることのできる代用表現であり、感情や意見の内容などに用いることはできない。そして、ソノコトが使える文章では、ソノコトのみが使用可能となるものはない。以下に示す例は、ソノコトとソウで代用できる文章である。

- (132) a. ケイコは マナブが精一杯勉強したのだと 分かっている。
- b. ケイコは**そのこと**を分かっている。
- (133) a. 校長は 雨でも運動会を強行すると 決定した。
- b. 校長は**そのこと**を決定した。
- (134) a. 母は 父が必ず生きて帰ってくると 信じている。
- b. 母は**そのこと**を信じている。

そして、ソノコトが使用可能となる文章は、ポイントのソコと共に代用可能となる場合が多い。次に、その中で他者との間の伝達を意味する動詞を用いる文章を示す。

- (135) a. 私は 浅田真央が一位ではなかったのを 教える。
- b. 私は**そのこと**を教える。
- (136) a. 裕太郎は 両親が自分に跡を継いでほしがっているのを 伝えた。
- b. 裕太郎は**そのこと**を伝えた。
- (137) a. 刑事は 容疑者が一度現場から逃げたのを 追求する。
- b. 刑事は**そのこと**を追及する。
- (138) a. タカシは 先輩が受験に失敗したのを 聞いた。
- b. タカシは**そのこと**を聞いた。
- (139) a. 政府は 必殺仕分け人が前半の仕事を終えたのを 発表した。
- b. 政府は**そのこと**を発表した。
- (140) a. 息子は 父が出張から戻るのが明日であるのを 確認した。
- b. 息子は**そのこと**を確認した。
- (141) a. 愛子は 入社式が明日の12時からであるのを 確認した。
- b. 愛子は**そのこと**を確認した。
- (142) a. 悠太は 監督が女優を説得するのを 聞いた。

- b. 悠太はそのことを聞いた。

そして、感情や心の動きを示す動詞の文においても、ポイントのソコとソノコトが使用可能である。

- (143) a. 友乃は 母が自分の好みを押し付けてはいないのを 認めた。
b. 友はそのことを認めた。
- (144) a. 報道陣は 犯人が食事を全くとろうとしないのに 注目した。
b. 警察官はそのことに注目した。
- (145) a. マリーは 犯人がそのまま逃げていくのに 焦った。
b. マリーはそのことに焦った。
- (146) 太郎は 次郎が約束を守らなかったのを 怒っている。
b. 太郎はそのことを怒っている。
- (147) a. 太一は 自分が妻の身代わりになるのを ためらっている。
b. 太一はそのことをためらっている。
- (148) a. 道代は 孫が成長するのを 楽しみにしている。
b. 道代はそのことを楽しみにしている。
- (149) a. 娘は 母と先生が仲が良いのを 嫌がった。
b. 娘はそのことを嫌がった。
- (150) a. 浦島太郎は 子供たちが魚をいじめていたのに 驚いた。
b. 浦島太郎はそのことに驚いた。
- (151) a. 清少納言は 自分の本が思ったほど人気がないのを 悲しんだ。
b. 清少納言はそのことを悲しんだ。
- (152) a. 母は 父が生きて帰ってくるのを 信じている。
b. 母はそのことを信じている。
- (153) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
b. 健太郎はそのことを嘆いた。
- (154) a. 恵理子は 大好きなアイドルが近くに引っ越してくるのを 喜んだ。
b. 恵理子はそのことを喜んだ。
- (155) a. 良介は 姉が結婚したのを 悲しんだ。
b. 良介はそのことを悲しんだ。
- (156) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
b. 健太郎はそのことを嘆いた。
- (157) a. マリエは 親友が先に結婚してしまうのだけが 気がかりだった。
b. マリエはそのことだけが気がかりだった。

- (158) a. 太郎は 合格通知が来ないのにばかり 気を揉んでいる。
b. 太郎は**そのこと**にばかり気を揉んでいる。

4.3. ポイントのソコ

埋め込み文がポイントのソコで代用できる文では、それが平叙文である場合、すべてソノコトと共に使用可能となる。まず挙げるのが、埋め込み文の内容について自分の中で認めていることを示す動詞である。このタイプでは、ソウも共に使用可能である。

- (159) a. ケイコは マナブが精一杯勉強したのだと 分かっている。
b. ケイコは**そこ**を分かっている。
160) a. 息子は 明日が父が出張から戻る日であると 確認した。
b. 息子は**そこ**を確認した。
(161) a. 愛子は 入社式が明日の 12 時からであると 確認した。
b. 愛子は**そこ**を確認した。

ポイントのソコとソノコトが使用できるものとして次に示すのは、他者との間の伝達を意味する動詞である。

- (162) a. 私は 浅田真央が一位ではなかったのを 教える。
b. 私は**そこ**を教える。
(163) a. 裕太郎は 両親が自分に跡を継いでほしいがっているのを 伝えた。
b. 裕太郎は**そこ**を伝えた。
(164) a. 政府は 必殺仕分け人が前半の仕事を終えたのを 発表した。
b. 政府は**そこ**を発表した。
(165) a. 刑事は 容疑者が一度現場から逃げたのを 追求する。
b. 刑事は**そこ**を追及する。
(166) a. タカシは 先輩が受験に失敗したのを 聞いた。
b. タカシは**そこ**を聞いた。
(167) a. 息子は 父が出張から戻るのが明日であるのを 確認した。
b. 息子は**そこ**を確認した。
(168) a. 愛子は 入社式が明日の 12 時からであるのを 確認した。
b. 愛子は**そこ**を確認した。
(169) a. 悠太は 監督が女優を説得するのを 聞いた。
b. 悠太は**そこ**を聞いた。

また、事象として表現されている埋め込み文の内容に対して感情を表す動詞を用いてあるタイプの文章もある。

- (170) a. 友乃は 母が自分の好みを押し付けてはいないのを 認めた。
b. 友乃は**そこ**を認めた。
- (171) a. 報道陣は 犯人が食事を全くとろうとしないのに 注目した。
b. 警察官は**そこ**に注目した。
- (172) a. マリーは 犯人がそのまま逃げていくのに 焦った。
b. マリーは**そこ**に焦った。
- (173) a. 太郎は 次郎が約束を守らなかったのを 怒っている。
b. 太郎は**そこ**を怒っている。
- (174) a. 太一は 自分が妻の身代わりになるのを ためらっている。
b. 太一は**そこ**をためらっている。
- (175) a. 道代は 孫が成長するのを 楽しみにしている。
b. 道代は**そこ**を楽しみにしている。
- (176) a. 娘は 母と先生が仲が良いのを 嫌がった。
b. 娘は**そこ**を嫌がった。
- (177) a. 浦島太郎は 子供たちが魚をいじめていたのに 驚いた。
b. 浦島太郎は**そこ**に驚いた。
- (178) a. 清少納言は 自分の本が思ったほど人気がないのを 悲しんだ。
b. 清少納言は**そこ**を悲しんだ。
- (179) a. 母は 父が生きて帰ってくるのを 信じている。
b. 母は**そこ**を信じている。
- (180) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
b. 健太郎は**そこ**を嘆いた。
- (181) a. 恵理子は 大好きなアイドルが近くに引っ越してくるのを 喜んだ。
b. 恵理子は**そこ**を喜んだ。
- (182) a. 良介は 姉が結婚したのを 悲しんだ。
b. 良介は**そこ**を悲しんだ。
- (183) a. 健太郎は 大好きなお菓子が販売中止になるのを 嘆いた。
b. 健太郎は**そこ**を嘆いた。
- (184) a. マリエは 親友が先に結婚してしまうのだけが 気がかりだった。
b. マリエは**そこ**だけが気がかりだった。
- (185) a. 太郎は 合格通知が来ないのにばかり 気を揉んでいる。
b. 太郎は**そこ**にばかり気を揉んでいる。

そして疑問文については、3章で述べたとおり、ソコのみが使用できる。

- (186) a. 優子は 浅田真央が何位だったかを 教える。
b. 優子は **そこ** を教える。
- (187) a. 店長は 自分がなぜクビになったのかを 伝えた。
b. 店長は **そこ** を伝えた。
- (188) a. 私は 浅田真央が一位だったかどうかを 教える。
b. 私は **そこ** を教える。
- (189) a. 息子は 父が明日出張から戻るかどうかを 確認した。
b. 息子は **そこ** を確認した。
- (190) a. 妻は 夫がいつ帰ってくるのかを 知っていた。
b. 妻は **そこ** を知っていた。

4.4. 現場のソコ

現場のソコは、他の代用表現よりも使用範囲が非常に限られているようだ。3章でも度々述べたとおり、現場のソコが使用可能となるのは、埋め込み文の内容が、その時目の前で繰り広げられている場面である場合だけである。現場のソコで代用可能な文章では、以下の4つのタイプの動詞が観察された。一つ目は、追うことを意味する動詞のタイプである。

- (191) a. 刑事は 容疑者が言い逃れしようとするのを 追及する。
b. 刑事は **そこ** を追及する。
- (192) a. 記者は アイドルが逃げようとするのを 追いかける。
b. 記者は **そこ** を追いかける。

そして、視覚的接触があることを示す動詞のタイプである。

- (193) a. 潤は 昔の恋人が他の人とデートしているのを 見て見ぬふりをした。
b. 潤は **そこ** を見て見ぬふりをした。
- (194) a. 光太郎は 妹がプロポーズされているのに 出くわした。
b. 光太郎は **そこ** に出くわした。
- (195) a. 少女は 殺人犯が逃走するのを 目撃する。
b. 少女は **そこ** を目撃する。
- (196) a. 幸子は 自分の妹が彼に告白するのを 見た。
b. 幸子は **そこ** を見た。

三つ目は、他者を変化させようと働きかけることを意味する動詞のタイプである。

- (197) a. 良子は 近所の子供がいたずら書きをしているのを 注意した。
b. 良子は**そこ**を注意した。
- (198) a. 真は 幸子が喧嘩しようとするのを とどめた。
b. 真は**そこ**をとどめた。
- (199) a. 祐介は コンビニで小さな少年が万引きしようとしたのを 捕まえた。
b. 祐介は**そこ**を捕まえた。
- (200) a. 花子は 息子たちが今にも喧嘩を始めようとするのを やめさせた。
b. 花子は**そこ**をやめさせた。
- (201) a. 真由美は リポーターが質問しようとするのを 遮った。
b. 真由美は**そこ**を遮った。
- (202) a. 洋平は 母親が料理するのを 手伝った。
b. 洋平は**そこ**を手伝った。

最後に、他者に伝達することを意味する動詞のタイプを以下に示す。

- (203) a. プロデューサーは 芸人が踊っているのを O.A. (放送) した。
b. プロデューサーは**そこ**をオンエアした。
- (204) a. カメラマンは 火事の現場が大混乱になっているのを (映像で)伝えた。
b. カメラマンは**そこ**を伝えた。

5. まとめ

日本語における埋め込み文の「ソ系」代用表現は、ソレ・ソノコト・ソコ・ソウでほぼ全てがカバーされる。その中でもソレは最も一般的な代用表現であり、ほとんどの埋め込み文を何の問題もなく代用できる。では、他の三つの代用表現は、どういった場合に用いられ、それぞれを使うとき、ソレにはないどのような効果を文章にもたらすのだろうか。本論文では、様々な例を用いてそれらについて分類した。その結果を以下で表にして示す。

(205) ト節

ト節と主節動詞との関係	主節動詞	ソコ		ソノコト	ソウ	
		現場	point			
項	感情(心配する・焦る etc...)	* / ?*	* / ?*	* / ?*	○	
	伝達(話す・教える etc...)	* / ?*	* / ?*	* / ?*	○	
	その他	「考えた」 「結論づけた」	* / ?*	* / ?*	* / ?*	○
		「決定した」 「信じている」	* / ?*	* / ?*	○	○
		「分かっている」 「確認した」	* / ?*	○	○	○
付加詞	(笑う・走る・待つ etc...)	* / ?*	* / ?*	* / ?*	* / ?*	

(206) ノヲ節

ノヲ節と主節動詞との関係	主節動詞	ソコ		ソノコト	ソウ	
		現場	point			
項	感情(心配する・焦る etc...)	* / ?*	○	○	* / ?*	
	伝達	(話す・教える etc...)	* / ?*	○	○	* / ?*
		現場	○	* / ?*	* / ?*	* / ?*
	その他	「働きかける」	○	* / ?*	* / ?* *	* / ?*
		「目撃する」	○	* / ?*	* / ?*	* / ?*

(207) 疑問節

疑問節と主節動詞との関係	主節動詞	ソコ		ソノコト	ソウ
		現場	point		
項	(知る・確認する etc...)	* / ?*	○	* / ?*	* / ?*

3章では、動詞のタイプによってどの代用表現が使用可能かを考察した。その結果は以下の通りである。

- (208) a. どの埋め込み文であっても、ソコ・ソノコト・ソウすべてと代用できない。
 b. ノヲ節は、いずれもソウで代用することができない。
 c. 項のト節は、いずれもソウで代用することができる
 d. 付加詞のト節は、いずれの代用表現をもっても代用できない。

- e. 疑問節は、ポイントのソコでしか代用できない。

このことから、代用表現の可否判断の大きな要因として、(i) 埋め込み文が動詞の項に当たるか、それとも付加詞かという点と、(ii) 埋め込み文がト節かノヲ節、それとも疑問節であるかという点が挙げられる。また、この表からさらに以下のこともわかった。

- (209) 現場のソコで代用できる文は、他の代用表現では代用できない。

4章では、ある代用表現のみが使える場合と、複数の代用表現が可能な場合を考察し、各代用表現について分析した。その結果を次の表に示す。

- (210)

ソウのみ	主語の感情を表現している動詞
	主語からのまたは主語への伝達・意思表示を示す動詞
ソウ、ソノコト、ポイントのソコ	埋め込み文の内容について自分の中で認めていることを示す動詞
ソノコト、ポイントのソコ	他者との間の伝達を意味する動詞
	感情や心の動きを示す動詞
	事象として表現されている埋め込み文の内容について感情を表す動詞
ポイントのソコのみ	疑問文
現場のソコのみ	他者を追うことを意味する動詞
	視覚的接触があることを示す動詞
	他者を変化させようと働きかけることを意味する動詞
	他者に伝達することを意味する動詞

このことから、それぞれの代用表現の可能な場合には、以下のようなことが関与していると思われる。

- (211) a. **ソウ**を使用できる文には、必ず自分のコメントもしくは気持ちが含まれている。
 b. **ソノコト**のみが使用可能となる文章はない。
 c. **現場のソコ**で代用する埋め込み文には、他との関わりを意味する動詞が必要である。
 d. **ポイントのソコ**は、疑問節以外の場合では、ソノコトと同じ範囲でで使用可能となる。よって、ポイントのソコは、ソノコトの一種であると位置づけられるのではないだろうか。

我々は無意識のうちに代用表現を使用しているわけだが、それによって、本来なら長く複雑にもなりうる文章を、すっきりとまとめることで理解しやすくし、コミュニケーションを簡潔に行えるようになってきている。そしてさらに、いくつかの代用表現を使い分ける

ことによって、文脈をより意識させる形で話を伝えることができる。それは、話の焦点を明確にし、意思を正確に伝えるのに役立っているのではないだろうか。

6. 参考文献

- 庵功雄(1995)「ソノNとソレ」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)』:632-637.
東京: くろしお出版.
- 井出至(1960)「所謂遠称の指示詞ヲチ・ヲトの性格」『国語と国文学』37-8: 43-51.
- 川端善明(1993)「指示語」『国文学 解釈と教材の研究』38-12: 60-67. 東京: 学燈社.
- 金水敏・田窪行則(編)(1992)『指示詞』東京: ひつじ書房.
- 国立国語研究所(1981)『日本語の指示詞』東京: 国立国語研究所
- 佐久間鼎(1952)『現代日本語法の研究』東京: 恒星社厚生閣.
- 佐久間まゆみ(2002)「接続詞・指示詞と文連鎖」仁田義雄・益岡隆志(編)『複文と談話』: 117-189.
東京: 岩波書店.
- 鈴木泰(1981)「指示詞」『日本文法事典』: 185-190. 東京: 有精堂
- 時枝誠記(1950)『日本文法口語篇』東京: 岩波書店